

平成30年度スキルアップ研修会 「薬剤師の研究に必要な統計解析の基礎知識」へ 参加して

西新潟中央病院 薬剤部 村上 明男

平成30年度よりNONMEM研修が統計解析の研修へ変更となったのを機に、当施設からは私を含めて2名が参加した。今までNONMEM研修の名前は知ってはいたが、正直な所難しく感じ、参加を見送っていた。しかし今回のスキルアップ研修会は「薬剤師の研究に必要な統計解析の基礎知識」という魅力的なタイトルと講義が組まれていたのを知り、学会発表を行う上で、得られたデータを用いた検定手法の理解や基本的な統計の知識が必須と思い、決意を新たに参加した。講義内容は国立がん研究センター研究支援センター生物統計部の若林先生、小川先生から、「統計の基礎知識」「検定手法の使い分け」「交絡調整のための多変量解析」「予測のための多変量解析」と4つのテーマに分けて受講した。前半2つの講義については、統計初心者の私でも何とか理解出来たと思う。後半については私の知識不足のせいかな難しく、事前にもう少し勉強をしておけば良かったと猛反省をした（最後の質疑応答では交絡因子についてのやり取りがあり、他の方は理解していたようだが私にはまだ難しかったのが正直なところだ）。研修会終了後の懇親会にも参加し、講義をしていただいた小川先生、若林先生とも和気あいあいとした雰囲気の中、交流の場を持つ事が出来たのはとても良い刺激だった。飲み会だけ参加で

も勉強になるかもしれない（冗談です笑）。ただ懇親会は研修会とは雰囲気も異なり打ち解けやすく、お互いの意見やお酒を交わす良い場にもなるので、できればより多くの方に参加していただけたらと思う。本研修会では統計における基本的な考え方から、実際に得られたデータからの検定方法やまとめ方、多変量解析の方法など基礎から応用部分にまで幅広く渡っており、それを1日の講義として学べる機会は非常に貴重だと思う。学んだ内容をすぐに習得するのは難渋するかもしれないが、講義を受ける前と受けた後では私にとっての理解度が大きく変わったと感じた。早速今回得られた知識を用いて2019年度日本臨床腫瘍薬学会学術大会でのポスター発表に反映させるつもりだ。本研修会の講義内容についてはICRweb [icrwed.jp] で復習が出来、関信地区国立病院薬剤師会HP上で資料を確認する事も出来る。「百聞は一見にしかず」、ご興味を持たれた皆さんも是非参考にして頂ければと思う。

最後に、国立病院機構（NHO）は世界最大の病院経営規模を誇る。そのような環境の中にある事を最大限に利用して、日々のクリニカルアクションについて学会や論文発表を行い、薬剤師として職能のアピールやNHO、NCの名前を世に広めて行けたらと思っている。